

県都まえばし創生プラン

（概要版）

（前橋版人口ビジョン・総合戦略）

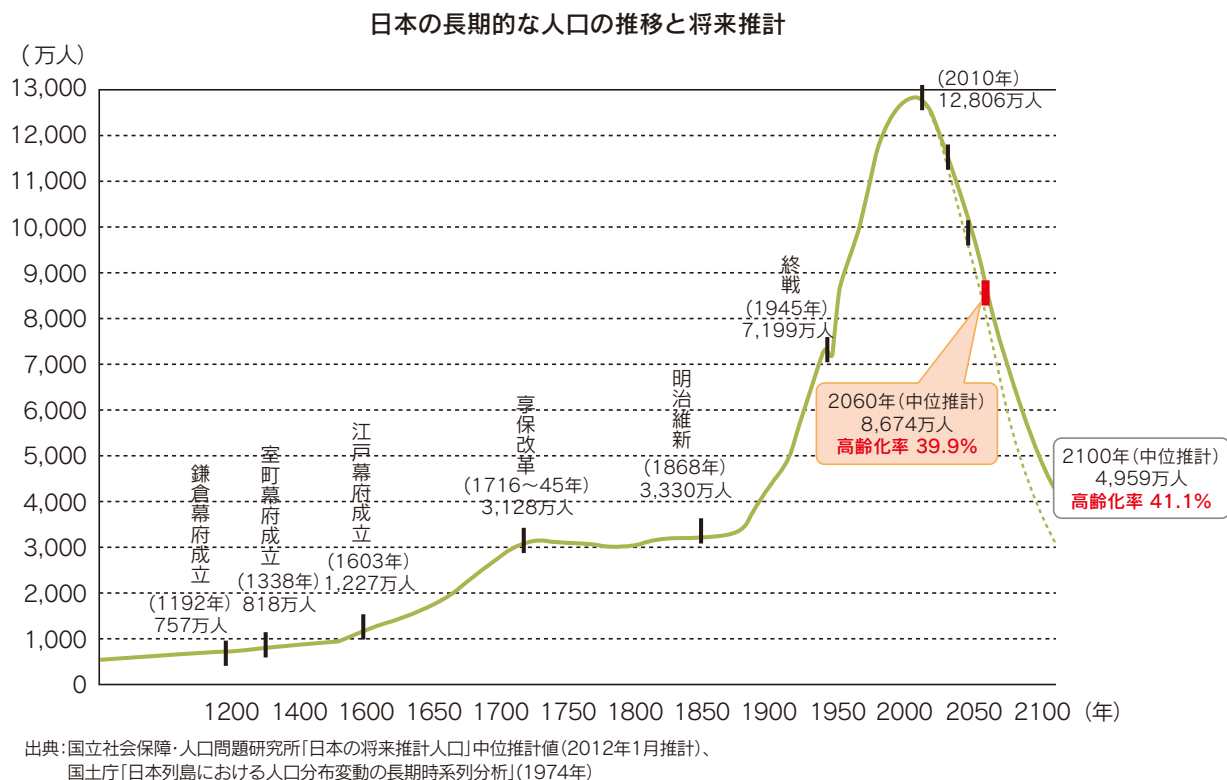
子どもたちの元気な声が聞こえる　ずっと住みたい生涯活躍のまち
～ 健康医療都市まえばし ～

平成28年3月
前橋市

1. 策定の背景

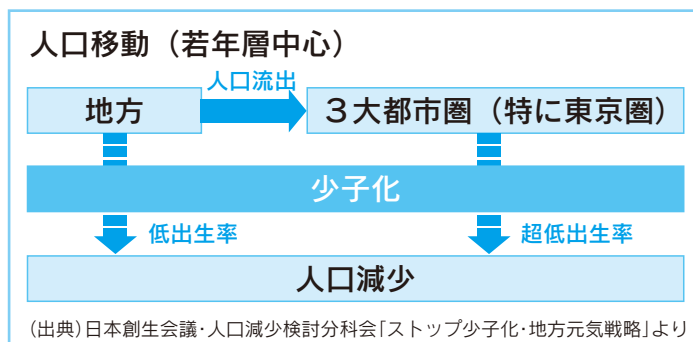
(1) 人口減少社会の進展

- 「2040年には全国1,800市区町村の半分が存続の難しい“消滅可能性都市”になる」民間有識者からなる日本創成会議の発表（2014年5月）以来、人口減少問題は日本中で大きな関心を集めることとなりました。
- 今後、人口減少は加速度的に進行し、国の推計によれば、現状のまま推移した場合、2060年には約8,674万人まで減少すると見込まれています。



(2) 地方創生とは

- 人口に大きな影響を与える出生状況について、2013年の合計特殊出生率は全国平均で1.42となっており、人口置換水準2.07^(※1)を大きく下回っています。中でも、東京都の合計特殊出生率は1.15と全国で最も低くなっており、地方の若い世代が出生率の低い東京圏へ流出し続ける限り、人口減少には歯止めがかからないとしています。
- 本市では、地方創生とは「人口減少の現実直面した危機感のある初めての本格的な地域活性化」であると定義します。これまでのいわゆる地域活性化と異なる点は、「人口減少問題の解決」を明確なゴールとして設定することにあります。



(※ 1) 現在の我が国における死亡の水準の下で、人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準をいう

2. 前橋版人口ビジョン・総合戦略

- 本市の人口は、2004 年をピークに人口減少局面へと転じ、2010 年に約 34 万人であった人口は、2060 年には約 22 万人まで減少すると見込まれており、市民への意識調査^(※2)では、8 割以上の方が「人口減少や高齢化に対して不安を感じる」としています。
- 人口減少問題は、病気に例えれば「慢性疾患」です。本市の現状を分析し（診察）、目標を定め（治療方針）、適切な施策を講じる（治療）ことが重要です。人口ビジョンでは、本市の現状分析（診察）と目標の設定（治療方針）を、総合戦略では、目標達成に向けた施策（治療）をそれぞれ提示します。
- ここで最も大切なことは、地域の産業界・行政・大学・金融機関・労働団体・言論界、そして市民が問題意識を共有し、課題解決に向けた取り組みを一つでも多く実行することです。本市の将来を担う子や孫たちの世代に課題を先送りすることなく、自信を持って引き継げる未来を選択することができるか、私たちは今、その覚悟を問われています。

(1) 人口ビジョン

本市の人口を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示します。

期間：2060 年まで

(2) 総合戦略

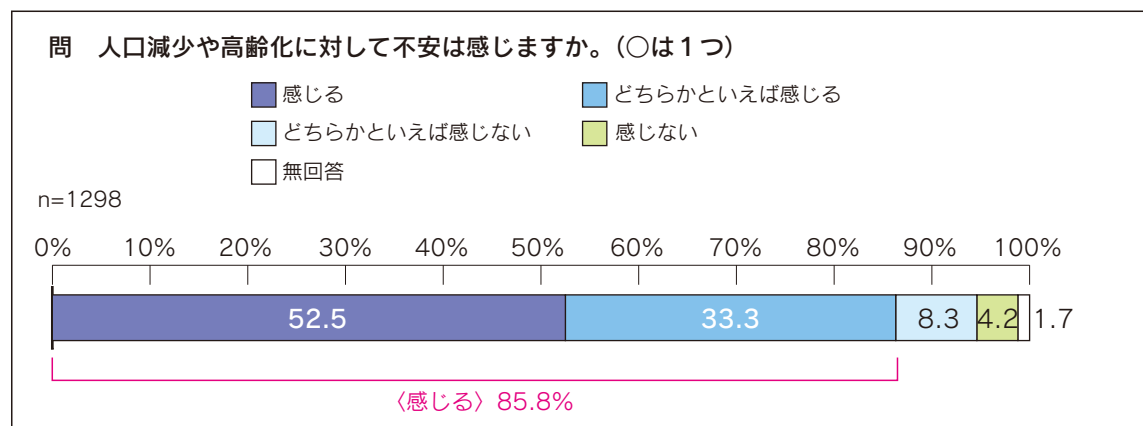
人口ビジョンの結果を踏まえ、今後5か年で取り組むべき施策を示します。

期間：5年間（2015～2019 年度（平成 27～31 年度））

(※2) 市民への意識調査

「結婚・出産・子育て」等に対する市民の意識を把握するため、市民 3,000 人を対象に無作為抽出により実施（H27 年度）

人口減少や高齢化に対する不安感

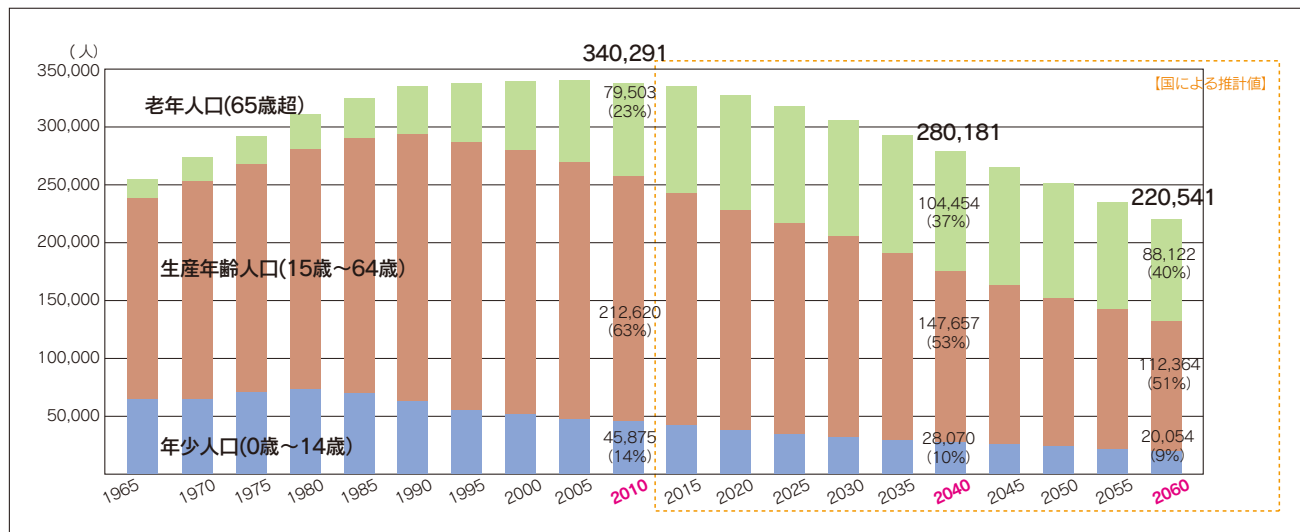


3. 人口ビジョン

(1) 前橋市の人口動向

①総人口と年齢3区分別人口の推移

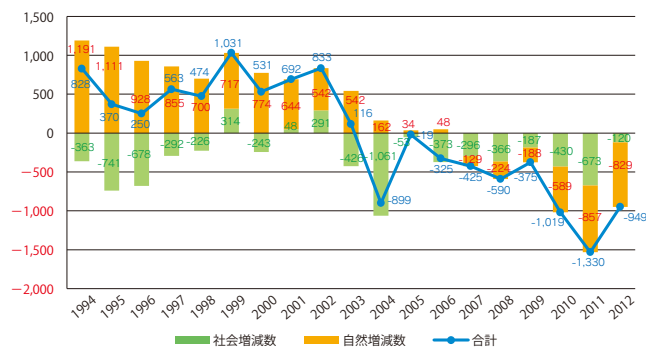
- 本市の人口は、既に減少局面へと突入しており、国の推計によれば、現状のまま人口減少が進んだ場合、2040年には約28万人、2060年には約22万人になると推計されています。
- 今後は、人口構造が急激に変化していきます。2010年に23%であった高齢化率は、2060年には40%まで上昇すると見込まれています。



②自然動態・社会動態の推移

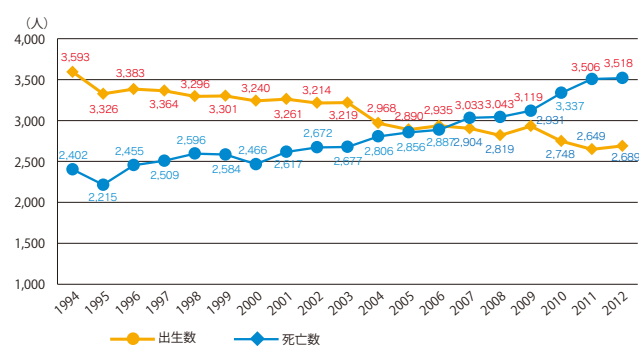
●自然増減及び社会増減の推移

近年は自然減に加え、社会減の傾向が続いています。
※自然増減（出生数と死亡数の差）、社会増減（転入数と転出数の差）



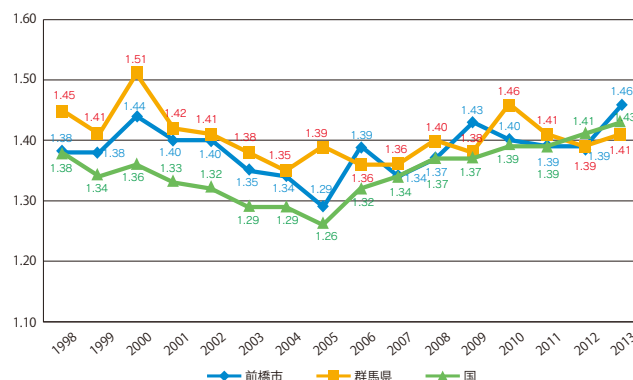
●出生数・死亡数の推移

2007年以降、死亡数が出生数を上回り、自然減が続いています。



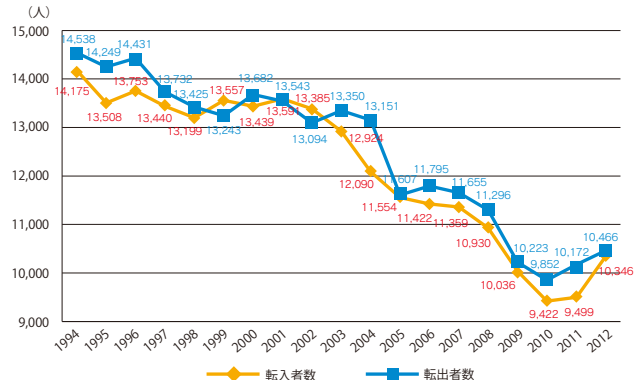
●合計特殊出生率の推移

2005年に過去最低の1.29まで下降しましたが、その後は微増傾向となっています。



●転出者数・転入者数の推移

近年は、転出者数が転入者数を上回っており、社会減（転出超過）の状態が続いています。



(2) 4つの優先課題

- 人口減少は、社会環境、経済環境、価値観・ライフスタイルの変化など、様々な要因が複雑に絡み合った結果として生じています。したがって、何か一つの処方箋によって劇的な成果が挙げられるものではなく、多岐に渡る取り組みを中・長期的に継続して推進することが重要です。
- しかしながら、将来的には人口と税収の減少が見込まれ、行政があらゆる公共的サービスを提供することには限界があることも事実です。そこで、「選択と集中」の観点から、優先的に解決すべき課題を4つに絞り込み、重点的に施策を推進します。

①未婚率の上昇

⇒未婚の原因解消

②夫婦間の出生数の減少

⇒産み控えの原因解消

③若者の総数の減少

⇒若者の定着・還流と新たな流れの創出

④要介護等認定者率の上昇

⇒生涯活躍のまちづくり

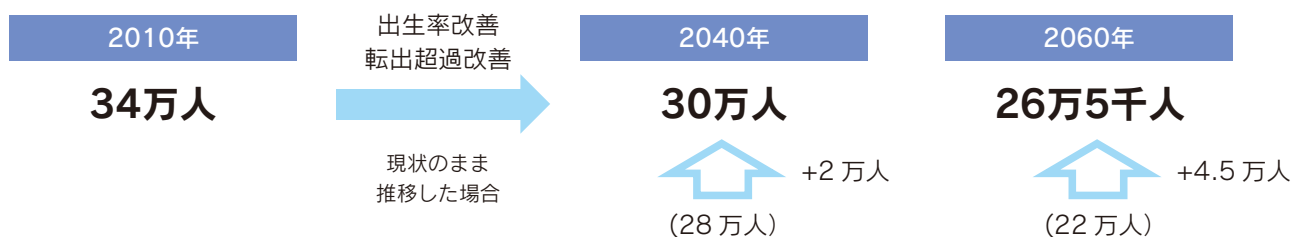
(3) 目指す将来の方向

●理念

子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち
～健康医療都市まえばし～

●人口の将来展望

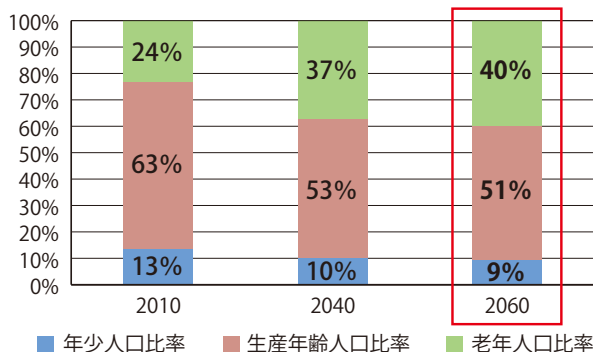
①人口



②構成 生産年齢人口・年少人口を増やす（人口構成を改善する）

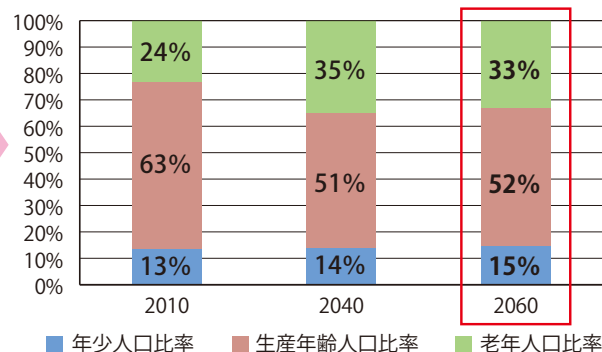
現状のまま推移した場合（2060年）

年少：生産年齢：老年 = 9% : 51% : 40%



将来展望（2060年）

年少：生産年齢：老年 = 15% : 52% : 33%



4. 総合戦略

(1) 基本的な考え方

- 本市の人口動向分析から導かれた基本目標と重要業績指標（KPI）の達成に向け、4つのコンセプトのもと、事業を推進します。
- 計画期間は5年間（平成27-31年度まで）

<基本目標>

- ①若者（18-34歳、特に女性）の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ②若者の定着と高齢者の活躍により、地域の活力を維持する

<重要業績指標（KPI）>

指標	現状値（26年度）		目標値（31年度）
①合計特殊出生率	1.42	→	1.52人
②20-24歳の市外への転出超過数	△251人	→	△118人

<4つのコンセプト>

- ①共有と発信 理念や目標を共有し、地域の魅力と価値をわかりやすく表現・発信します
- ②選択と集中 本市が直面する課題を明確にしたうえで、より効果が見込める施策を重点的に推進します
- ③地域特性の活用 地域特性（強み、他市との優位性）を用いて、課題を解決します
- ④官民連携 地域の民間事業者・関係団体・NPO・住民（産学官金労言）と連携し、課題を解決します

(2) 優先課題の解決に向けた方向性

優先課題に対しては、12の解決の方向性を示し、本市の強みや特性を活かした事業を実施します。

●4つの優先課題

1 未婚率の上昇

2 夫婦間の出生数の減少

3 若者の総数の減少

4 要介護等認定者率の上昇

●12の解決の方向性

①出会いの機会の
応援

②安定的な雇用と
収入の確保

③不妊・不育支援

④2人目の壁打破

⑤子どもの育ちを
支える教育

⑥市内高等教育機関
の魅力向上

⑦市内大学生等の
定着

⑧ふるさと就職を促す
魅力あるしごとづくり

⑨交流人口の増加

⑩移住・定住促進

⑪生涯活躍の
まちづくり

⑫都市のコンパクト化
と交通ネットワーク

●本市の強み（地域特性・他市との優位性）

健康・医療

農業・食

立地・防災

教育・文化

自然・エネルギー

(3) 10のシンボル事業（さがけ10）

- 「人口減少・超高齢化というピンチをチャンスに変える」、「人口減少問題の克服や東京一極集中の是正を解決する全国モデルを創る」
- こうした考え方のもと、地域の強みや特性を活かしながら、前橋市が取り組む10の先導的・象徴的事業は以下のとおりです。

1 若年男女の結婚への壁打破

結婚に向けたロードマップを示し、若者が直面する結婚への障壁を可視化・打破

2 「ジョブセンターまえばし」による包括的就職支援

職業相談から就職後の定着支援まで、ハローワーク前橋と連携した包括的就職支援

3 「子育て世代包括支援センター」の充実

《健康・医療》

妊娠期から子育て期までの不安や負担を解消するワンストップ相談・支援拠点の充実

4 地域寺子屋事業

《教育・文化》

地域の支援のもと、小中学生を対象に平日は学習活動、休日は体験活動を提供

5 産学官民コンソーシアムによる学生の定着促進

《教育・文化》

COC+大学を中心に産学官民コンソーシアムを構成し、市内企業への長期インターンシップ等を実施

6 「ベンチャーヘブンまえばし」の実現

「前橋市創業センター」を中心に、各支援機関と連携した一元的な創業支援を展開

7 魅力の発信拠点となる新たな「道の駅」

《農業・食》

本物の食（農業）・自然を体感できる、本市の魅力や地域資源の発信拠点を整備

8 地域づくりネットワークを核とした「家族移住」の促進

《立地・防災》

移住コンシェルジュやお試し移住により、移住を希望する東京圏の若者家族を支援

9 前橋版CCRCの推進

《健康・医療》

東京圏から移住したアクティブシニアと地域住民が共に生涯活躍できるまちづくりを推進

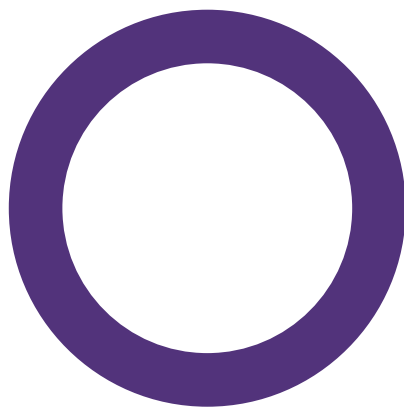
10 交通ネットワークの再編

自動車に過度に依存しない交通ネットワーク形成の構築（鉄道・デマンドバス・LRT等）

結婚・出産・子育て支援

若者の定着

生涯活躍



前橋市
MAEBASHI CITY

県都まえばし創生プラン(概要版)

平成28年3月

発行 前橋市

編集 前橋市政策推進課